

## 福岡大学筑紫病院眼科 後期臨床研修プログラム

### 筑紫病院眼科の特徴：

- 眼科専門医取得のための研修施設に認定されている。
- 網膜硝子体疾患の手術治療を主体とし、白内障・緑内障や外眼部、斜視手術なども行っている。
- 外眼部（眼瞼・涙道など）や眼表面（結膜、角膜疾患）の一般眼科医の必須領域も研修可能。
- 近隣開業医や他の研修施設（大学病院など）との緊密な連絡・連携がある。
- ステレオタイプの眼科医でなく、カスタムメイドな眼科医育成をめざす。
- コメディカルスタッフや他科医師との、開かれた交流ができる。

### 研修計画：

「卒後臨床研修（2年間）終了後、認定された研修施設で4年以上研修を終了した者。即ち卒後臨床研修を含め6年以上の臨床経験を終了した者。」は、眼科専門医の認定試験の受験資格を得、**眼科専門医**の資格を取得できる。

この資格取得を目安に、「**日常診療で遭遇する病態に適切に対処できるよう眼科診療の基本的能力（態度、技能、知識）を身につけると共に、医師としての人格を養う**」ことを目標とする。

### 研修日程（概要）：

#### 一年目

1. 最初の1か月で前眼部疾患について学び眼科患者の特異性について知る。その後は網膜硝子体疾患の主治医として眼底検査に修熟する。
2. 外来患者の検査，診察を通して外来診療の基礎を身につける。
3. 外来での外眼部疾患の小手術を行う。
4. 斜視患者の主治医として，両眼視機能等の検査を行い，習得する。
5. 斜視，眼瞼手術の術者となる。
6. 内眼手術患者の主治医として全身および眼科全般の検査を行い，手術助手として手術法を学ぶ。
7. 病棟総回診で主治医としてプレゼンテーションを行い，カンファレンスで受け持ち患者の治療方針等について検討，批評を受ける。
8. 病院内外科系当直として，外科系全体の救急患者診療を学ぶ。

## 二年目

1. 白内障患者の主治医として、結膜、強角膜の切開、縫合など段階的に手術をし始める。
2. 網膜剥離 10 例を受け持ち、眼底検査のさらなる習熟と共に助手として手術方法を学ぶ。
3. 糖尿病網膜症患者に対する光凝固治療を 20 例以上行い、虹彩・網膜のレーザー治療全般を習得する。
4. 自験症例について研究会や学会で発表し、学術雑誌に投稿する。

## 三年目

1. 他施設で、眼科医員としての研修を受ける。
2. この場合、主に大学病院ではみられない外眼部疾患について学ぶと共に、外眼部手術、白内障手術を術者として行う。
3. 毎週木曜日には福岡大学筑紫病院眼科のカンファレンスに参加する。
4. 自験症例について研究会や学会で発表し、学術雑誌に投稿する。

## 四年目

1. 硝子体手術例の主治医として、助手を務めつつ硝子体手術方法を学ぶ。
2. すべて（除く硝子体手術）の症例の主治医となり、手術を完遂する。

研修等修了後の進路：①当院でスタッフとして勤務、②他院で研修、  
③国内・海外留学（臨床、研究など）

指導体制：研修責任者 眼科部長 向野 利寛  
ほか 佐伯 有祐（眼科専門医）

選考方法：面接

申込・応募先：福岡大学筑紫病院 管理課

提出書類・提出期日・発表期日は、病院の規程に準ずる

病院見学の申込先・問い合わせ先：

福岡大学筑紫病院眼科 担当者：佐伯 有祐（眼科医局長）

電話番号：092-921-1011 内線 6332

F A X : 092-928-0856

E-mail : [kounot@fukuoka-u.ac.jp](mailto:kounot@fukuoka-u.ac.jp)

（送信時は、title に、「後期研修」と入れてください）